

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

2023 年度と比べて、問題の量と論述解答の量が増加し、解答しやすい設問が減少した。

出題の特徴や昨年との変更点

一部に字数指定のない論述問題が出題された。

その他トピックス

長らく出題がなかった生態の分野からの出題があった。廃問となった設問があったほか、論述問題を選択問題に変更するなど、訂正が多数あった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	空欄補充 記述 論述 計算	遺伝子 タンパク質	生物	問2 1塩基多型がみられる部位が C であると、多型がみられる部位を含む領域に「CCGCTG」の塩基配列が現れ、↓で示された部位以外にも制限酵素 X の認識配列が生じる。	標準
[2]	空欄補充 記述 論述	受容器	生物	問5 設問文中に「オスへの特別な処置は行わないものとする」とあるので、視覚や嗅覚を妨げたオスを用いる実験は不可である。	標準
[3]	空欄補充 選択 論述	生態 進化	生物	問2 死亡率が一時的に増加した理由と、死滅しなかった理由の両方を書く必要がある。	やや難
[4]	選択 論述	動物の行動 タンパク質	生物	問4 ハタネズミ M 種は、物質 B の受容体を発現していないので、遺伝子非導入個体と遺伝子導入個体できずな形成に差がみられる。この結果により、ハタネズミの種間のきずな形成の違いを、物質 B の働きにより説明することができる。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

まずは標準的な知識を尋ねる問題での失点をできるだけ少なくしなければならない。教科書の内容を正確に理解し、説明できるように練習しよう。また、いずれの大問にも考察問題が含まれており、文章の読解力やデータの考察力が試される。初めて見る題材に対しても落ち着いて論理的な思考ができるように、考察問題に慣れておく必要がある。過去問と類似した内容が出題されることがあるので、過去問演習をしっかりと行おう。今回は出題されなかったが、呼吸、細胞分裂、免疫などの分野も出題頻度が高いので注意しておこう。分子レベルの内容が多く出題されるため、特にタンパク質が関連するテーマについてはしっかり学習しておこう。